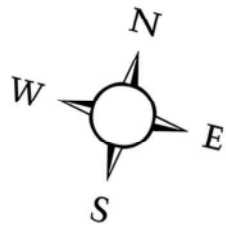


芦東山記念館周辺 ガイドマップ



徒歩20分

芦東山先生墓地

深芦旧墓地
柴桑旧墓地

義兄孝之丞の家
(柴桑)

終焉の地(新屋)

佐久間仏師宅

芦東山先生生家
(深芦)

現在地



芦東山記念館

掬水庵跡

芦家住宅
(旧記念館)

掬水の丘

徒歩1分

お伊勢様

浜民市民センター
一関市民俗資料館

八幡神社

芦東山先生
遺徳碑

東川院

徒歩7分

郵便局

至 猿沢

至 大原

砂鉄川

至 奥州

車で3分

国道343号線

至 陸前高田

道の駅だいとう



芦家住宅

徒歩
1分



江戸時代末期の嘉永五年（一八五二）、第十三代仙台藩主伊達慶邦が気仙沿岸の海防警備と当地方の産業育成のため、巡視の際の宿泊用に建てられたものです。普段は、大肝煎芦章右衛門、文十郎父子の離れ座敷としても使われていました。

仙台の一本杉（現在の仙台市若林区一本杉）に所在した藩邸の造りを真似て建てられており、農民や下級武家の住宅などには決して見ることの出来ない上質な造りとなっています。

平成十九年まで芦東山先生記念館として使われていました。創建当時の武家建築の様式を色濃く残している市指定有形文化財です。

掬水の丘

徒歩
1分



芦東山記念館から東に室根山を望む掬水の丘は、芦東山が幼少の頃、祖父浄岩白栄や師桃井素忠から学んだ「掬水庵」跡です。白栄は素忠とともに晩年をここ、掬水庵で過ごしています。この丘には桃井素忠の墓と祖父白栄の墓碑があります。

昭和十一年、芦育平氏が芦東山先生記念館の建立を試みたときの名残の遺跡をみることもでき、周辺には「萩の会」と「芦東山先生顕彰会」による植樹がされています。

芦東山先生墓地

徒歩
20分

芦東山の墓所には両親と妻の墓が並び、向かって左から、妻娼、東山、父一桂、母亀女の順に並んでいます。

碑文は、仙台藩の儒学者田辺希元（一七二一～一七八三）によるものです。碑文の前半は、芦家の来歴と渋民村へ定着する経過を紹介しています。

後半は、好学だった幼年期から仕官後の学歴と活動、幽閉期や無刑録の著述に至る経緯を紹介し、芦東山を称える漢詩で結んでいます。



東川院

徒歩
7分



東川院は明治三十年（一八九七）に再建され金谷稻荷山東川院とされましたが、三つのお寺（宮城県の東川院・長寿寺・観音寺）の歴史を今

なお大切に守り続け継承しています。

東川院には、国指定重要文化財の「聖観音坐像」や、市指定文化財の「十一面観音立像」「梵鐘」「奥州三十三所観音順礼再興納札」などがあります。